



YAMAHA

IP電話会議システム総合カタログ

ProjectPhone

「話しやすく、聞きやすい」遠隔会議を実現！ IP通信によるヤマハの音声会議システム

IP 電話会議システム PJP-50R

LANポート・LINEポート・AUDIO IN/OUT 端子搭載で、
様々な用途に使用可能な音声会議システム

1 マイクインジケータ 2 アレイマイク 3 LINEポート(アナログ電話回線用)
4 LANポート 5 DC IN 12V端子 6 AUDIO IN端子 7 AUDIO OUT端子

希望小売価格(税抜)	170,000円
JANコード	49 60693 23316 0
外部インタフェース	Ethernet(10/100BASE-TX)、アナログ電話モジュラーコネクタ アナログ入出力各1系統(ミニジャック) ACアダプタ接続用コネクタ(DC-12VIN)・付属AC電源アダプター
設置姿勢	水平±5°
最大消費電力	8W
電波障害規格	VCCIクラスA
動作環境	動作温度:0~40℃、動作湿度:20~85%(結露しないこと)
外形寸法	283.4(W)×51.5(H)×297.5(D)mm
質量	約1.4kg(電源アダプター含まず)
電源	AC100V 50/60Hz
付属品	ACアダプター、電源コード、LANケーブル(3m)、電話ケーブル、取扱説明書、保証書
その他	ロギング機能(SYSLOG)、ファームウェアバージョンアップ(HTTP、TFTP)、設定(Web、本体キー操作)
アレイマイク	ゾーン収音機能、スポット収音機能、話者自動追尾機能 収音範囲:推奨2m、最大5m ^{※1}
アレイスピーカ	点音源制御、指向性制御、拡散モード(モノラル出力)・混音音分離モード、 話者位置再生モード(最大定位数:3地点)、音量:85dB
周波数帯域	300~7,000Hz(ワイドバンド)
信号処理	3ch 適応型エコーキャンセラー、ノイズリダクション、マイク/スピーカアレイ制御
接続地点	メッシュ接続(最大4地点)、カスケード接続(最大8地点)
音声Codec 必要伝送帯域	G.711(16kHz) 2地点間通話:上り下りそれぞれ160kbit/s 3地点間通話:上り下りそれぞれ320kbit/s 4地点間通話:上り下りそれぞれ480kbit/s G.711(μ-law) 2地点間通話:上り下りそれぞれ90kbit/s 3地点間通話:上り下りそれぞれ180kbit/s 4地点間通話:上り下りそれぞれ270kbit/s
その他の機能	DHCP、SIP準拠、内蔵時計、SNTPサーバによる時刻同期

○幅広い回線に対応
PJP-50Rは、「LANポート」「LINEポート」「AUDIO(IN/OUT)端子」を搭載しているので、回線に幅広く対応できます。またオーディオミキサー搭載により各種回線を同時に接続して通話することができ、例えばIP電話会議に電話で参加することも可能です。

※1...設置環境・接続環境によって異なる場合があります。



IP電話会議システム

PJP-50R

希望小売価格(税抜) 170,000円
JANコード 49 60693 23316 0



多拠点接続用オーディオミキサー

PJP-MC24

希望小売価格(税抜) 530,000円
JANコード 49 60693 23387 0

多拠点接続用オーディオミキサー PJP-MC24

多地点の音声会議を手軽にする、
プロジェクトフォン音声会議専用多拠点接続SIPサーバ

1 POWERランプ 2 ALARMランプ 3 STATUSランプ
4 CONFERENCEランプ 5 LANポート 6 AUDIO IN端子 7 AUDIO OUT端子
8 CONSOLEポート 9 INITスイッチ 10 POWERスイッチ 11 電源コード

希望小売価格(税抜)	530,000円
JANコード	49 60693 23387 0
接続機器	ヤマハIP電話会議システム PJP-100H、PJP-50R
接続機点数	最大24機点(4台 連続接続時 最大96機点)
連結台数	最大4台
会議機能	会議招集、会議予約
同時開催会議数	合計31部屋(24機点会議室→1部屋、10機点会議室→30部屋)
LANポート	1ポート(10BASE-T/100BASE-TX、ストレート/クロス自動判別機能)
オーディオポート	ステレオアナログ入出力 各2系統(コネクタミニジャック)
状態表示用LED	前面6(Power/Alarm/Status/Conference/Link/Speed)
動作環境条件	周囲温度 0~40℃、周囲湿度15~80%(結露しないこと)
保管環境条件	周囲温度-20~50℃、周囲湿度10~90%(結露しないこと)
電源	AC100V(50/60Hz)
最大消費電力	0.12A
電波障害規格	VCCI クラスA
外形寸法	220(W)×42.6(H)×220(D)mm(ケーブル、端子類含まず)
質量	1200g
付属品	LANケーブル(1本)、取扱説明書、保証書、CD-ROM
IPプロトコル	IPv4
呼び制御プロトコル	SIP(RFC3261準拠)
最大機点登録数	500
最大同時接続数	200
音声Codec	G.711(16kHz)独立方式、G.711(μ-law)
プロキシ機能	ステートフル、Record-Route
認証機能	ダイジェスト認証
管理機能	機点情報、通話状況、通話履歴、障害履歴、会議履歴、障害メール通知、SNMP
設定手段	TFTPによるダウンロード/アップロード可、設定・管理ページ(GUI)、CSV形式ファイルによる機点の一括登録

安全に関するご注意 ●本製品の設置、ご使用に関しましては取扱説明書などに記載されている注意事項や禁止事項をよくお読みの上、必ずお守りください。

●本製品の日本国外での使用については一切のサポート、保証をいたしません。●このカタログの記載内容は2014年3月現在のものです。●仕様は予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。●価格には本体設置費用は含まれておりません。●本カタログに記載されている会社名、製品名は一般に各社の登録商標あるいは商標です。

音声コミュニケーション機器お客様ご相談センター

■お電話によるお問い合わせ先 ☎03-5651-1838 ■FAXによるお問い合わせ先 ☎053-460-3489

ご相談受付時間 9:00~12:00 13:00~17:00(土・日・祝日、弊社定休日、年末年始は休業とさせていただきます。)

◎最新情報はこちら

<http://jp.yamaha.com/products/communication/>



感動を・ともに・創る

製造元
ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1
2014年3月作成

お問い合わせ先



このパンフレットは再生紙と植物油インクを使用しています。

ヤマハ 音声コミュニケーション機器ホームページ

<http://jp.yamaha.com/products/communication/>

カタログコード MPJIP004

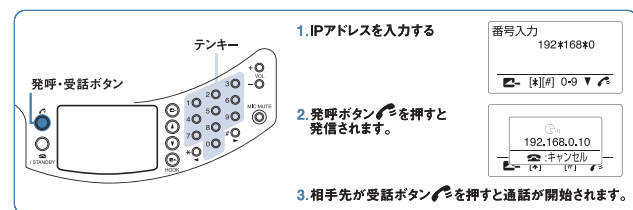
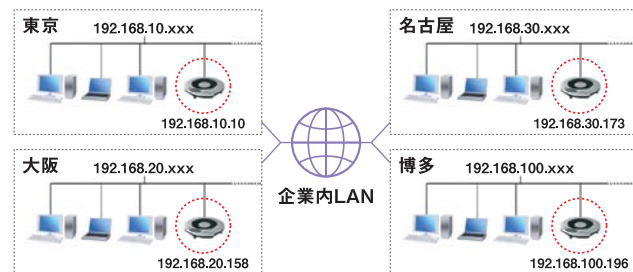
IP電話会議システムの「使い方」

IP電話会議システムは、社内の拠点間コミュニケーションに最適です。
既存の企業内LANを利用し、すぐに無料の遠隔会議が始められます。

PJP-50R単独使用の場合

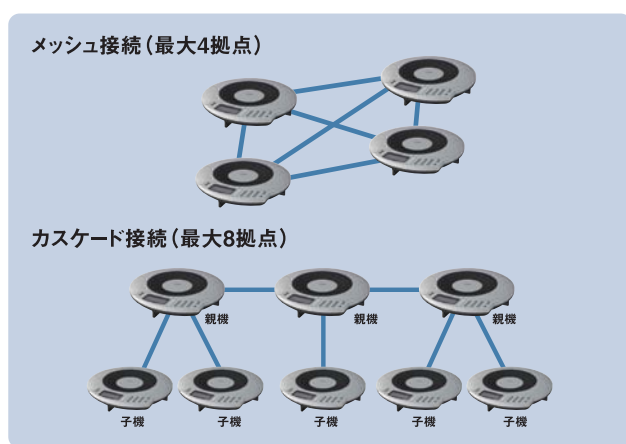
○受発呼も簡単

受発呼するための難しい設定は unnecessary です。例えば東京から名古屋に接続する場合は、名古屋のIPアドレス(図の192.168.30.173)を入力し、発呼ボタンを押します。相手先(名古屋)が受話ボタンを押すと、通話が始まります。



○多地点接続費用も不要

多地点接続装置(MCU)なしで最大8拠点までの音声会議が可能です。メッシュ接続時4拠点、カスケード接続時8拠点まで接続。専用回線使用料や多地点接続サービス料、高価な機材など、いっさいありません。



会議招集アプリケーションを使えば簡単に多地点接続が可能です。

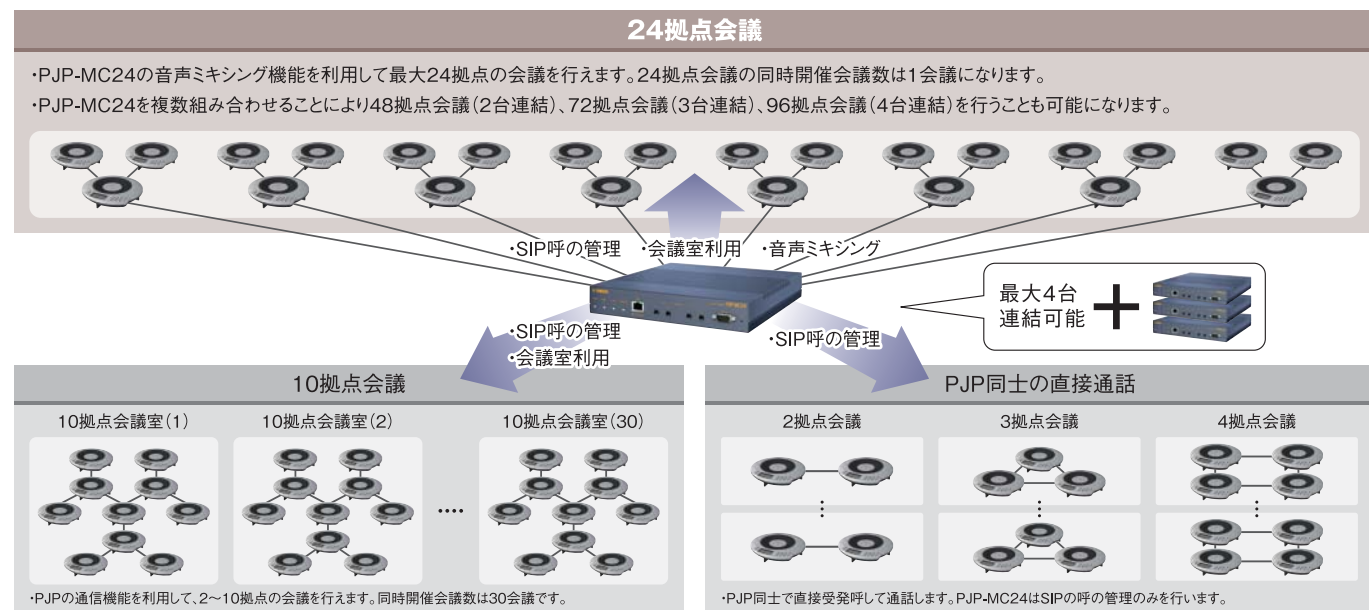
PJP-MC24と組み合わせた場合

○最大24拠点を同時接続

PJP-MC24はPJP-50Rによる24拠点の同時接続・通話を可能にする音声会議用多地点接続装置(MCU)です。さらにPJP-MC24は最大4台まで連結接続することが可能であり、4台連結時には最大96拠点を接続した音声会議が行えます。

○さらに多彩な会議招集も可能

PJP-MC24の機能を活用することで、10拠点会議やPJP-50R同士の直接通話など、多彩な会議形態が可能になります。Webブラウザから会議開催の招集・予約ができるため、多地点接続も簡単。またSIP機能により端末使用状況や使用実績も把握できるため、導入したPJP-50Rの利用状況を把握・分析することも可能です。



・PJP-MC24の管理可能通話数は200通話(呼)のため、PJPの接続可能台数は200通話の範囲内となります。・同時開催会議数は合計31会議(24拠点会議×1、10拠点会議×30)になります。

IP電話会議システムの「導入メリット」

簡単接続、高音質、多地点接続、そしてコスト削減、エコ……
IP電話会議システムには遠隔会議を最適化する多くのメリットがあります。

IP接続ならではの高音質

IP電話会議システムは、人間の声の周波数をほぼカバーする7kHzの広帯域で通信を行います。これはアナログ電話(3.4kHz)の約2倍。そのため声だけでも誰が話しているかわかり、臨場感のある会議が実現できます。さらにPJP-50Rに搭載された適応型エコーキャンセラーにより、音切れやエコーのない快適な会話が可能です。

各種コストを削減

IP電話会議システムを導入すれば、出張旅費、移動中の人件費などは、確実に削減できます。しかもIP接続なので、既存のLAN回線を使用すれば通話料は無料です。テレビ会議システムの場合には必要となる専用回線使用料や多地点接続サービス料、高価な機材なども必要ありません。

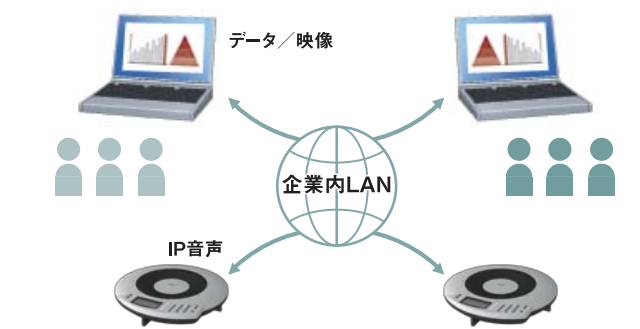
エコ出張でCO²排出量を削減

CO²排出削減は、企業にとって極めて優先度の高い課題です。IP電話会議システムを導入して出張を減らせば、業務効率向上や出張経費削減はもちろんのこと、移動にともなうCO²排出量はゼロになり、CO²排出削減にも大きな効果を生み出します。

活用方法も多彩

○Web会議システムなど、他の機器との組み合わせ

PJP-50RとWeb会議システムを組み合わせれば、遠隔地と資料共有をしながら高音質の音声会議をおこなえます。PJP-50Rの音声通話を、Web会議と別セッションで行うことにより、Web会議側のネットワークやPCの影響を受けない安定した通話が可能になります。またLAN機能搭載プロジェクタやネットワークホワイトボード、ネットワークカメラとの組み合わせも可能で、遠隔地との細かな意志疎通が実現します。



○IP常時接続でリモートオフィスを実現

拠点間でPJP-50RのIP常時接続を行うことで、簡単にリモートオフィスが実現します。東京と大阪のオフィスを常時接続して、声をかければすぐに応えられるようにしたり、離れた開発現場を常時接続することにより、キーボードを打つ手は止めずに気軽に相談しながら共同作業を進めることが可能になります。

IP音声会議のメリット

- LAN回線さえあればどこでも簡単に使用可能
- 既存のLAN回線を利用すれば通話料が無料
- IP接続ならではの「高音質」
- 「多地点接続」も簡単かつ接続費用も不要
- エコ出張でCO²排出量を削減



テレビ会議システムのデメリット

- 機材が高価
- 使用する会議室が固定されている
- 接続に専用回線が必要

アナログ電話会議システムのデメリット

- 通話料が必要
- 多地点接続の場合、接続費用が必要
- 音声帯域が狭い